

アドルフ・メンツェル『サンスーシ宮殿のフルート演奏会』1850〜52年

曲目解説

Bourrée anglaise

ブーレ・アングレーズ

Johann Sebastian Bach（1685–1750）　ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

曲目解説

Bourrée anglaise ブーレ・アングレーズ

Partita in a minor for Solo Flute, BWV 1013 ／ 無伴奏フルートのためのパルティータ イ短調 より 第4曲

Johann Sebastian Bach（1685–1750） ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

作曲	1720年代のはじめごろ（正確な年は分かっていない）
原曲の編成	フルート（フラウト・トラヴェルソ）1本（無伴奏）
調・拍子	イ短調・4分の2拍子
この楽譜	Mutopia Project（J. Shapiro 浄書、パブリックドメイン）の楽譜に、篠笛の運指を付記

作曲者

ヨハン・ゼバスティアン・バッハは、ドイツ中部のアイゼナハに、代々音楽家を出した家に生まれました。ヴァイマルの宮廷オルガニスト、ケーテンの宮廷楽長を経て、1723年からはライプツィヒの聖トーマス教会のカントル（音楽監督）を務め、その地で生涯を終えました。

ケーテンの宮廷（1717〜23年）は、礼拝に手の込んだ音楽を用いない改革派の宮廷だったため、バッハはこの時期、器楽曲に力を注ぎました。無伴奏ヴァイオリンや無伴奏チェロのための曲、『ブランデンブルク協奏曲』、『平均律クラヴィーア曲集』第1巻などは、この時期に生まれています。

生前は、作曲家としてよりも、オルガンの名手として知られていました。没後はしばらく忘れられましたが、1829年にメンデルスゾーンが『マタイ受難曲』を蘇演したことをきっかけに、19世紀に再評価が進みました。

曲の成り立ち

バッハが、フルート1本だけのために書いた、ただひとつの曲です。アルマンド、コレンテ、サラバンド、ブーレ・アングレーズの4つの舞曲からなり、ブーレ・アングレーズは、その最後の曲です。

自筆譜は残っておらず、2人の写譜者による写しが1つだけ伝わっています。写しの題は『フラウト・トラヴェルソのための独奏曲』（Solo pour la flûte traversière）で、「パルティータ」という名は、20世紀の編者が付けたものです。写譜者の筆跡から、ケーテン時代の終わりから、ライプツィヒ時代の初め（1722〜24年ごろ）に写されたと考えられています。

当時のフルートは、キーが1つだけの木製のフラウト・トラヴェルソです。休みの少ない、高い技術を求める書き方から、腕の立つ奏者を念頭に置いて書かれたと考えられています。

曲調と聴きどころ

ブーレは、フランスのオーヴェルニュ地方の民俗舞踊に由来する、軽快な2拍子の舞曲です。拍の前から、弾み込むように始まるのが特徴です。「アングレーズ」は、フランス語で「イギリス風の」という意味です。

前半と後半を、それぞれくり返す二部形式です。前半で別の調へ移り、後半はいくつかの調を巡ってから、イ短調に戻ります。

8分音符と16分音符が途切れなく続き、1本の旋律の中で、高い音と低い音が交互に跳ねます。耳で追うと、高い声部と低い声部の2つが、会話しているように聞こえます。バッハの無伴奏の曲によく見られる、「隠れた多声」と呼ばれる書き方です。休符がほとんどないので、どこで息を吸うかが、吹き手の工夫どころになります。

音楽のしくみ （かんたんな音楽理論）

調　イ短調

ラを主音とする短調で、調号はありません。

拍子　4分の2拍子

1小節に4分音符が2つ。ブーレは、拍の前から弾み込むように始まる、軽快な舞曲です。

隠れた多声

1本の旋律の中で、高い音と低い音が交互に出てきます。

高い声部と低い声部の2人が会話しているように聞くと、バッハの書き方が見えてきます。

篠笛の楽譜と調について

　同じ曲を、全体の高さを同じ幅だけ上げ下げして書き直すことを「移調」といいます。

篠笛は1本ごとに高さが違うので、笛に合わせて調を選ぶと、無理のない指づかいで吹けます。チューナーの「基準 A」は、ラの音を何ヘルツに合わせるかのことで、ふつうは 440Hz です。

笛に合わせて伴奏の基準を少し下げると、笛を無理にカらずに音程がそろいます。

楽譜	内容
標準の運指版	イ短調（原調）。運指は「一＝ド」として付けています。笛だけで吹くなら、 何本調子の笛でも同じ指で吹けます（鳴る高さは笛によって変わります）。
おすすめの版	八本半上調子・七本半調子・八本調子（古典調）の笛のための楽譜です。原曲と同じイ短調で、 1オクターブ上を吹きます。音源（A＝440Hz）にそのまま合わせられます。×の運指は53か所です。 一 の高さが近い笛は同じ指で吹けます。笛の高さは気温や湿気で変わるので、 季節やその日の笛の調子によって、音源と合う笛を選んでください。音ごとのメリ・カリの目安は、 実測した八本半上調子の値です（笛によって前後します）。
六本調子版	六本調子（古典調）の笛のための楽譜です。ト短調（原曲より全音下）、チューナーの基準 A＝431Hz（全体を45セント低く）。実測した六本調子の笛で、 ×の運指やメリ・カリがいちばん少なく吹ける調を選び、音ごとのメリ・カリの量も書いています （笛によって前後します）。

藤舎名玄　2026